

「山陰地区青少年教育指導者研修会」

～青少年教育施設職員の資質向上を図る～

1 趣旨

青少年教育施設の職員や教育関係者が集まり、円滑な人間関係づくり、コミュニケーション能力向上に関わる技能・ノウハウ等を学び、その後の施設での業務向上に役立てる。また、施設職員同士の情報交換を行い、つながりを深める。

2 事業の概要

(1) 期間

令和5年11月20日（月）～11月21日（火）

(2) 会場

島根県立青少年の家（サン・レイク）

(3) 主催

国立三瓶青少年交流の家

(4) 協力

鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、島根県立青少年の家（サン・レイク）、島根県立少年自然の家

(5) 参加者

23人

(6) 講師

福田 悟 氏【しまね四季の学び舎】

(7) 日程

11/20 (月)	13:00		13:30	14:00		17:00		18:30	20:15		21:00	22:00	22:30
		受付	オリエンテーション 開会行事	【研修①】 「自然体験活動と インクルージョン」 講師：福田 悟		夕 休 食 憩	【研修②】 人間関係づ くりの理論 と実際		入 浴	情 報 交 換 会	就 寝 準 備	就 寝	
11/21 (火)	6:30	7:15		7:30	8:30	9:00		12:00		13:00	13:30	事業検討会後	
	起 床	身 辺 整 理	掃 除	退 所 点 検	朝 食	休 憩		【研修③】 サバニ研修 荒天時：障がい者スポーツ体験		昼 食	閉 会 行 事	事 業 検 討 会	解 散

3 事業の内容

(1) プログラムデザイン及びその企画のポイント

- 研修①では、「しまね四季の学び舎」福田悟氏を講師に招いた。福田氏による「自然体験活動とインクルージョン」をテーマにした講演と演習を通して、自然体験活動の意義や特別な支援を必要とする人（スペシャルニーズ）の自然体験活動の機会保障について参加者が見識を深めることができるようにした。
- 研修②は、本研修会の共通テーマとして位置付けている「人間関係づくり」のプログラムについての研修を行った。参加者にSAP（Sanbe Adventure Program）を体験してもらい、その後はグループに分かれ、各施設の人間関係づくりプログラムの実施状況についての情報交換をした。実際に体験をした後に情報交換をすることにより、体験したアクティビティをもとに情報交換ができるように企画した。
- 研修③は、会場である島根県立青少年の家（サン・レイク）において、主催事業や日々の研修支援プログラムで実施しており、人気がある湖面活動の「サバニ」体験を行った。研修①②を踏まえ、目標設定、自然体験活動、振り返りの一連の流れの中、本物の自然に触れられるように研修を企画した。

(2) 運営（連携）のポイント

- 会場施設である島根県立青少年の家（サン・レイク）が有する強みを最大限生かせるようにするため、研修日程の原案作成や講師の打診は島根県立青少年の家（サン・レイク）が中心に行った。
- 当日の進行の仕方について島根県立青少年の家（サン・レイク）と事前に確認しておくことによ

り、当日の運営を円滑に行うことができるようにした。

- ・閉会行事後には、来年度以降の研修会への円滑な事業運営につなげるため、事業検討の時間を設定した。全体で来年度の開催日や研修テーマを協議することにより、各施設が見通しをもてるようにした。

(3) 広報のポイント

- ・山陰地区の教育関係者に周知するため、島根県と鳥取県の教育委員会の協力の下、関係機関に開催要項のデータを送り、広報を依頼した。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	71.0	29.0	0	0
研修内容	76.0	24.0	0	0
運営面	67.0	33.0	0	0

(2) 参加者の声

①研修に関するもの

- ・障がいのある方や外国の方など全ての方が安心して活動に参加できるように、所としても考えていきたいと思った。
- ・座学だけでなくフィールドワーク等をもっと取り入れて欲しかった。
- ・S A P (Sanbe Adventure Program) の理論的な部分を聞き、体験させてもらい大変参考になった。
- ・サバニ体験では、自然に触れて感動を味わうことができとてもよかったです。

②参加者交流に関するもの

- ・いろいろな方とお話や交流ができてよかった。

③運営に関するもの

- ・送迎時間等について会場と主催者で確認が必要だと思う。
- ・交流会の時間をもっと取って欲しかった。
- ・運営スタッフで事前に情報共有をする必要がある。

④来年度以降の要望など

- ・P A (プロジェクトアドベンチャー) について学びたい。
- ・管理系の職員が参加しやすい研修を設けて欲しい。

5 成果と課題

《成果》

- ・「障がいのある方や外国の方など全ての方が安心して活動に参加できるように、所としても考えていきたいと思った。」とのアンケートの記述にあるように、研修①では、これからの自然体験活動について参加者が特別な支援を必要とする人(スペシャルニーズ)の自然体験活動の機会保障について見識を深める機会とすることができた。
- ・「S A P (Sanbe Adventure Program) の理論的な部分を聞き、体験させてもらい大変参考になった。」とのアンケートの記述にあるように、研修②では、人間関係づくりについて参加者が学びを深める機会とすることができた。
- ・「サバニ体験では、自然に触れて感動を味わうことができとてもよかったです。」とのアンケートの記述にあるように、研修③では、参加者が自然体験活動の中で本物の自然に触れる機会とすることができた。

《課題》

- ・運営を行うに当たって、主催者と会場施設、スタッフで情報共有を密に行い、円滑な運営ができるようにする必要がある。
- ・研修については、座学だけでなくフィールドワーク等の時間も取り入れたい。
- ・研修②では、情報交換の時間が十分に取れなかった。来年度は、情報交換の時間を多く取り入れるようにしたい。
- ・山陰地区の教育関係者に広報を行ったが、青少年教育施設の職員以外の参加者が集まらなかった。来年度は、学校等を巻き込んで、教育関係者の参加を促したい。



研修①：講師の福田氏による講義



研修①：視覚に障がいのある方への登山の支援体験



研修②：人間関係づくりプログラムの理論



研修②：人間関係づくりプログラムについての情報交換



研修③：サバニ研修



研修③：サバニ研修



研修③：サバニ研修



研修③：サバニ研修

(担当：企画指導専門職 其山 佳裕)